

2025年2月25日

報道関係 各位

住友不動産株式会社
ユニ・チャーム株式会社

ユニ・チャームと住友不動産、使用済み紙パンツの利活用を推進 大規模オフィスビルに「再生パルプ」トイレトペーパーを導入

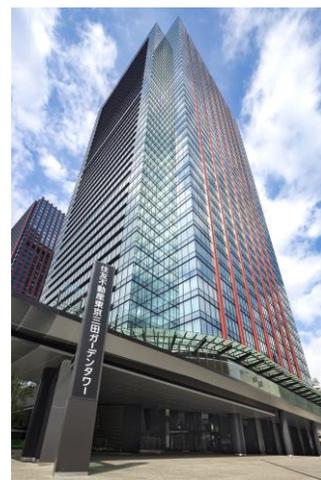
住友不動産株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:仁島 浩順、以下:当社)とユニ・チャーム株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長執行役員:高原 豪久、以下:ユニ・チャーム)は、ユニ・チャームが開発したオゾン処理技術を活用し、使用済み紙パンツ(紙おむつ)から抽出した「再生パルプ」を原材料の一部に配合したトイレトペーパー※を、2025年2月より「住友不動産東京三田ガーデンタワー」に導入することをお知らせいたします。

また、各トイレ内における本取組みに関する掲示を通じて、ビルで働くオフィスワーカーやビル来訪者などに對して、環境意識の啓発を実施してまいります。

※ポピー製紙株式会社にて生産



トイレ内 掲示設置イメージ



住友不動産
東京三田ガーデンタワー



当社はDBJ Green Building認証※を82棟(プラン認証含む)、合計面積約110万坪(2024年3月末時点で全賃貸資産の約75%)で取得しています。また、管理・運営の面でも、既存ビルの改修を通じた環境性能の向上を図り、ビルから排出された廃棄物のリサイクルを通じて「循環型社会」に向けた取り組みを継続しております。

今般、使用済み紙パンツから抽出した「再生パルプ」を活用するリサイクル活動「Reff(リーフ)プロジェクト」を展開するユニ・チャームと協業することで、一般の方々にも紙パンツを廃棄物としてではなく資源として再利用する取組みの周知を推進します。

今後も、両社の専門性とノウハウを融合し、日常生活の中で資源を循環させる取組みの輪を広げてまいります。

※グリーンビル認証制度の一つで、株式会社日本政策投資銀行による、不動産の「経済性」に留まらない「環境・社会への配慮」における性能・取組みを評価する制度。

◆使用済み紙パンツを資源化する循環フローについて

今回、「住友不動産東京三田ガーデンタワー」に導入するトイレトペーパーは、鹿児島県志布志市大崎町で回収された使用済み紙パンツをユニ・チャームが開発したオゾン分解技術によって抽出した再生パルプを原材料の一部に使用しています。

同フローによりつくられた「再生トイレトペーパー」を大手不動産会社が導入するのは、東京で初の試みとなります。

高齢化社会の進行によって今後も増加する使用済み紙パンツを、廃棄物ではなく資源として活用する本取組みは、「持続的な社会」の実現に貢献するものと考えています。

【協業フロー】



◆関連サイト

・ユニ・チャーム 紙おむつの未来を考える note
https://note.com/unicharm_reff/n/ndd527865b974

・ユニ・チャーム『RefF(リーフ)』ブランドサイト「みんなでつくる未来サイクル」
<https://www.unicharm.co.jp/ja/csr-eco/reff.html>

<本件に関するお問い合わせ先>

ユニ・チャーム株式会社 グローバル マーケティング コミュニケーション本部 Love Your Possibilities 広報部
TEL: 03-6722-1019 Email: brand-pr@unicharm.com
住友不動産株式会社 広報部
TEL: 03-3346-1042

◆ユニ・チャームのSDGsに関する取り組み

当社は、「SDGsの達成に貢献する」ことをパーパス(存在意義)として掲げ、社会課題や自然環境問題の解決に向けた取り組みを推進しています。中長期 ESG 目標「Kyo-sei Life Vision 2030」に基づき、使用済み紙パンツの再資源化を目指す「ReF(リーフ)プロジェクト」を2015年に開始し、2019年にはオゾンを用いた滅菌技術を活用して、未使用のパルプと同等品質の衛生的な「再生パルプ」の生成に成功しました。この技術を活用し、2022年には再生パルプを使用した大人用紙パンツ『ライフリーReF』を製造・提供するほか、2024年には『マミーポコパンツ ReF』や『デオトイレ消臭・抗菌シートReF』などを一部地域で発売しています。これらの取り組みを通じて、使用済み紙パンツを単なる廃棄物ではなく資源として再利用し、循環型社会の実現に向けた活動を進めています。今後も、環境負荷の低減と持続可能な社会の構築に貢献してまいります。



使用済み紙パンツ

再生パルプを使用した商品

再生プラスチックを配合した商品

参考:ユニ・チャーム | [ユニ・チャーム『ReF\(リーフ\)』ブランドサイト「みんなで作る未来サイクル」](https://www.unicharm.com/jp/reff)

◆住友不動産グループのSDGsに関する取組み

当社は、「よりよい社会資産を創造し、それを後世に残していく」という基本使命の下、各事業を通じた社会課題の解決に取り組んでまいりました。分譲マンション事業や注文住宅事業では、環境性能の高い住宅をお客様に提供し、新築そっくりさん事業では、省エネ性能に優れた住宅への改修と創エネ設備の普及に取り組むことで既存住宅における長寿命化と脱炭素を推進しております。

主力のオフィスビル事業では、サントリーグループとの協働による「ペットボトルの水平リサイクル～ボトルtoボトル」をはじめ、UACJ・東洋製罐グループと協業した、ビルから排出されるアルミ缶の水平リサイクルなど、様々な事業者様との協業による取り組みを推進しております。

今後も環境・社会に配慮した、先々まで必要とされる価値の高い社会資産の創造を通じ、より一層、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



参考:住友不動産 | [住友不動産 | サステナビリティ/ESG \(sumitomo-rd.co.jp\)](https://www.sumitomo-rd.co.jp)

本リリースに関する取り組みは、下記のSDGs目標に貢献しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

我々は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

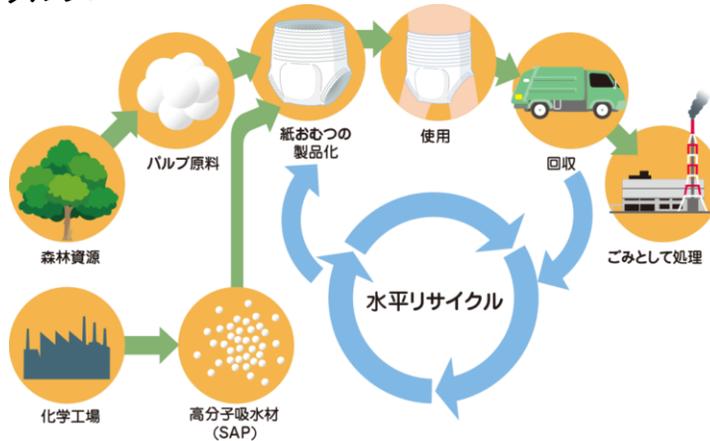
(ご参考)

◆RefF(リーフ)について

「Recycle for the Future」の頭文字をとったもので、ユニ・チャームが展開する水平リサイクルのブランド名です。当社は持続可能な社会の実現に貢献するべく「使用済みの紙パンツを捨てないみらい」に向けてリサイクルに取り組んでいます。



◆紙おむつのリサイクルフロー

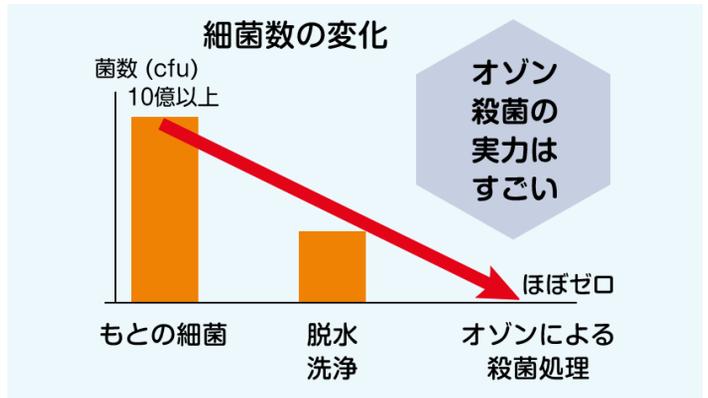


◆オゾン処理でパルプを再生する仕組み

① オゾンで殺菌

使用済み紙おむつは洗浄後も大腸菌などの細菌が付着しています。オゾンが持つ強い酸化作用で、オゾン処理をしたあとのパルプは、細菌がほぼゼロ。衛生的なパルプに生まれ変わります。

cfu: Colony forming unit (コロニー形成単位) の略で、生菌数(生きている菌の数)を表す。



② オゾンで漂白

使用済み紙おむつには、し尿に含まれるタンパク質などの色素が残っていますが、オゾンの強い酸化作用で色素のものが消え、白さを取り戻します。

オゾン処理前のパルプ



繊維に色素が付着して全体が汚れて見える

オゾン処理後のパルプ



繊維から色素が消えて本来の見た目の白さに戻る

③ オゾンで消臭

においのもとになる悪臭成分は、オゾンの強い酸化作用によって別の物質に変わること、においも消えてしまいます。

こうして殺菌・漂白・脱臭されたパルプは、未使用パルプと同じ品質を取り戻します。また、処理に使用するオゾンは時間の経過とともに酸素に戻るため、リサイクルパルプに残留することなく安全です。